

景況DI値は大幅に回復、製造業はマイナス50台前半を示す

2月の情報連絡員報告によると、製造業、非製造業とも景況DI値は、先月に続き大きく好転した。又、景況のみならず、収益状況をはじめとして多くの調査項目で大幅に回復している状況がうかがえるが、先月同様に最悪の景況であった一年前と比較した見かけ上の数値にすぎない側面があり、実際の景況を示してるとは言い難い。

【製造業63人、非製造業87人、計150人の集計】

各項目のDIの動き（前年同月比）

	全 体	製 造 業	非製造業
売 上 高	😊	😊	😊
在 庫 数 量	😊	😊	😊
販 売 価 格	😞	😞	😊
取 引 条 件	😊	😊	😊
収 益 状 況	😊	😊	😊
資 金 繰 り	😊	😊	😊
設 備 操 業 度	😊	😊	—
雇 用 人 員	😊	😊	😊
業 界 の 景 況	😊	😊	😊

😊 …増加、上昇、好転

😐 …不変

😞 …減少、低下、悪化

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
小 売	青果小売業	価格高騰を防ぐためにも輸入野菜の安定供給を維持する施策を実施していただきたい。
	酒小売業	国民の酒類消費が増加することはないと思われる。これ以上、酒類販売店が増加することを抑えてほしい。
サービス業	複写業	価格重視の入札制度を改め、地場産業を育てる入札制度の導入を検討していただきたい。
	公衆浴場業	エコ対応のため燃料をガス化した組合員も多いが燃料代の負担も大きい。ガス料金の引き下げを望む。

平成22年
2月

業 界 の 声

製 造 業

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食 料 品	中華麺製造業	地方業者との競合や低価格化による収益悪化が原因で廃業する組合員が現れている。
	製粉業	麺製品等への加工に不向きな国産麦の価格が外国産麦より高値となる現象が起こっており、是正の取り組みが重要となっている。
繊維・同製品	ネクタイ製造業	23ヶ月連続の売上高マイナスとなった。
	帽子製造業	天候の影響から売上が極端に減少した。
	帆布製品製造業	売上は前年比で大きく落ち込んでいる。3月の年度末需要に期待しているが、先行きに大きな不安感が漂っている。
	洋服製造業	組合員間に受注量の格差が現れている。しかしながら、加工賃が低下しており、受注量が多くても収益につなげていない。
	ニット製品製造業	消費者の関心はファストファッションに向いており、国内製品への関心は薄い。
木材・木製品	建具製造業	年度末需要が伸びない。建築関連が特に伸び悩んでいる。住宅関連業界として住宅エコポイント制度が話題となっているが、制度の認定基準が分かりづらい。
紙・紙加工品	紙製品製造業	年度末を控えているが、業績は厳しい。新年度向けの需要も見通しは立っていない。
印 刷	印刷業	昨年10～12月の売上実績は前年比90%となった。1～3月は前年比88%との予測がなされており、回復の兆しが見られない。
	印刷加工業	景況の悪化傾向は前年と変わっていない。出版不況が影響している。
化学ゴム	プラスチック製品製造業	受注量は前年並みと低水準で推移した。また、納期の短縮要求が増加しており、組合員は生産調整に苦慮している。
窯業・土石製品	セメント建材製造業	年度末のため若干の注文はあるが、新年度以降の注文が全くない厳しい状況にある。
	コンクリート製品製造業	例年、営業日数が少ない2月は売上が伸びないが、現在の売上の減少は次元を超えた状況にある。収益状況や資金繰りにも悪影響が及んでいる。
	砕石製造業	厳しい状況が続く中で、脱退組合員が発生している。
鉄鋼・金属	ダイカスト製品製造業	大手自動車メーカーのリコール問題が発生後、品質に対する注文が厳しくなっている。自動車関連の受注状況に変化はないが、先行きが懸念される。
	金属熱処理業	自動車や建設機械関連で業績の回復が見られる。ただし、組合員間で格差がみられ、平均すると操業度は7割程度となっている。また、ユーザーからの値下げ要求が激しく、値下げが不可能な場合は海外調達の実施を示唆されるなど、困難な状況に陥っている。
	鋳物製造業	多少、受注に動きのあった組合員も、今月に入り受注量が低下した。先行きが懸念される。
	鍍金加工業	一部に受注回復の動きもあるが、好転するまでには至っていない。最悪であった前年に比べて回復傾向にあると言えるが、実態としては底這いの状況にある。業者間で競合が強まったことで受注価格は低下傾向にあり、経営環境は厳しさを増している。
	製缶業	需要に回復傾向が見られるが、業者間の受注競争が激化している。
	建築金物製造業	受注量は減少傾向にあり、先行きは依然不透明である。
輸送用機器	自動車部品製造業	前年比では売上状況は改善しているが、実態としてはリーマンショック以前の60%弱に過ぎない。収益状況は依然マイナスである。
一般機械	写真製版器材製造業	受注量は前年より増加したが、2年前の受注量には達していない。
	精密工具製造業	依然として売上高、収益は減少傾向にある。
	産業用機械製造業	売上高は前年比で増加している。しかし、2年前と比べると売上は20～30%減少している。
その他の製造	工業塗装業	売上高の減少度合いは若干改善しているが、依然として厳しく、いつまでこの状態が続くのか、先行きが危惧されている。
	ガス圧接業	住宅着工件数は依然伸び悩んでおり、採算割れの状況であっても建材単価の下落が止まらない。
	スポーツ用品製造業	バンクーバー冬季オリンピック大会の日本選手団の成績は、隣国である韓国、中国と比べると非常に厳しかった。隣国のスポーツ政策の充実が目覚ましい。今後のわが国のスポーツ振興施策に期待する。

平成22年
2月

業 界 の 声

非 製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	家具卸売業	組合員2社が脱退。組合員の減少が危惧される。
	理容用品卸売業	神奈川県内の有力卸売業者が倒産し話題となっている。長引く理容業界の不況と美容業者の理容業界への進出等が影響していると見られている。組合員の営業活動も慎重になっている。
	電線卸売業	銅電線の出荷実績は前年比でマイナスとなっている。
	ニット製品卸売業	組合員の脱退が止まる一方、新規加入の動きが見られる。低価格により経営環境は悪化しているが、ネット取引で業績を伸ばしている組合員も見受けられる。
	洋食器卸売業	組合員の体力が低下している。関西地区では大手の間屋が倒産する事例も発生した。
	再生資源卸売業	再生資源の市況が低値で安定しつつある。また、再生資源の発生量が確実に減少している。
	青果卸売業	仕入れ状況は対前年比110%となっている。
	銅製品卸売業	最悪であった前年と比較すれば売上は増加しているが、2年前との比較ではマイナス15%となっている。
	木材卸売業	見積り件数は増加しているものの、売上高は減少している。在庫数量を圧縮しているため品薄感がある。
	紙卸売業	年度切り替え時の需要に期待しているが、見通しは立っていない。
	玩具卸売業	正月商戦で健闘した人気商品が引き続き好調で、組合員の多くが前年比で売上が増加している。
	鶏卵卸売業	業務用の需要不振が続く。一般小売向けの販売量は増加しているが、価格の下落から収益は伸びていない。景気低迷の影響が業界全体に色濃く反映され、設備投資意欲も低い。
小 売	化粧品小売業	天候不順のため季節商品の売上が伸び悩んだ。
	木材小売業	売上状況は前年と変わらず厳しい状況が続いている。
	青果小売業	天候が不順で野菜類が高騰している。果物の売上も振るわない状況が続いている。
	古書籍小売業	売上は前年とほぼ変わらず、組合員の増減もなかった。景況好転の兆しは見えない。
	包装材料小売業	段ボールの生産量は回復している一方、売上状況は芳しくない。良好な顧客との関係を維持するためには仕入価格の安定が望まれる。
	自動二輪小売業	排気音が大きい不正改造車の排除を目的に交換用マフラーの規制制度が4月より実施される。今回の制度改正は不正改造車の騒音対策に有効な手段であり、二輪車を取り巻く環境の改善につながることを望んでいる。
	酒小売業	今月は19組合員が廃業のため組合を脱退した。コンビニエンスストア、スーパー等の酒類小売への進出による影響と思われる。低価格指向により利益は減少。
	タイヤ小売業	中国等からの輸入品の台頭やインターネットでの安売りの影響で市場価格の下落が著しい。
	食品小売業	売上の低迷が続いている。相変わらず生鮮部門（青果、鮮魚、精肉）の売上が振るわない。来客数は戻りつつあるが、客単価下げ止まらず売上全体を押し下げている。
	電器製品小売業	液晶テレビの単価下落が依然続いている。エコポイント制度の継続やアナログ放送の終了など商環境は整っているにもかかわらず、大手電器店に受注の大半を奪われ、地域電器店の現状は厳しい。
	中古自動車小売業	低価格車は売れるものの高価格車は伸び悩んでいる。
	衣料品小売業	気温の変動が大きすぎるため、冬物及び春物アウターを中心に売上が停滞した。
	ペット小売業	この時期は鳥類の繁殖を準備する月であるが、売上の低迷でブリーダーも少なくなっており、先行きの見通しは暗い。
	文具小売業	商品が動かない。万年筆やボールペンの修理など、通販ではできないサービスを求める顧客に限られている。取り扱い商品を多様化することで売上高を維持しているのが現状である。
眼鏡小売業	長期間、売上が低迷している組合員が増加しており、親族以外の従業員の雇用継続が困難となりつつある。一方、前年比で売上を回復している組合員もあり、二極化の傾向が見られる。	

小 売	鮮魚小売業	居酒屋等の業務用売上が減少している。
商 店 街	秋 葉 原	テレビ、レコーダー等の単価が落ち込んでいる。また、エコポイント制度延長により制度終了の駆け込み需要が期待できなくなった。新年度のフレッシュマン需要に伴い来店客は増加している。
	目 黒	もともと売上の伸び悩む月であるものの、非常に厳しかった。新年度は商店街として新事業を実施し、売上増加を目指したい。
	合 羽 橋	顧客である外食産業が不振であるため、売上は全般的に厳しい状況にある。
サ ー ビ ス	廃棄物処理業	廃棄物排出量が大幅に減少した結果、収集運搬価格が下落している。特に大手スーパー等からの値下げ要求が強く、新年度の契約更新が危惧されている。
	自動車整備業	自動車整備の繁忙期が近づいており期待が高まっている。しかしながら、景気の悪化によりユーザー車検や整備なし車検が増加していることが懸念材料となっている。
	クリーニング業	2月は1年で最も閑散な時期であり、景気低迷の影響も合わせ非常に厳しい売上状況であった。
	複写業	需要回復の兆しが全く見えず、組合員のモチベーション低下の一因になっている。年度末を控えての官公需を期待しているが、見通しは立っていない。
	飲食業	売上が減少する一方、仕入価格が上がっており、非常に厳しい状況にある。廃業を余儀なくされる組合員が増加している。
運 送	貨物自動車運送業	組合員間の景況に格差が生じており、景況を業界全体として判断することが困難になっている。荷主サイドの業者選別が厳しくなっているが、経営管理を適切に実施している企業は着実に業績を伸ばしている。
	港湾運送業	コンテナ貨物の取扱量が若干回復しているものの、景況は依然として厳しい。
建 設	鉄筋工事業	倒産組合員が1社発生した。